

7月27～30日の大雨による被害の発生と今後の技術対策

福島県農林水産部農業振興課

7月27～30日の大雨による農業被害について

会津、南会津地方で7月27日(水)から30日(土)までに、只見680.0ミリ(7月の降水量では過去最高)、西会津で327.5ミリ、南会津町南郷274.0ミリの記録的な豪雨があり、河川のはん濫や土砂崩れが発生し、水田や畑、パイプハウス等への冠水や土砂流入などにより、農作物に大きな被害が発生しました。

なお、詳細な被害状況は調査中です。

1 水 稲

(1) 畦畔補修と水管理

ア 畦畔が決壊したり流出した場合は、仮畦畔を作り水管理ができるようにしてください。また、土砂やごみ等異物が流入した場合は、稲の茎葉を損傷しないように取り除きましょう。

イ 浸水・冠水した水稲は耐干性が低下しているため、水田を急に干すことは避け、間断かん水に努めてください。

(2) 病害対策 (いもち病、紋枯病)

冠水した稲では濁水により稲の茎葉に多くの傷等が生じ、今後出穂期を控え、穂いもちや紋枯病などの病害が発生しやすくなります。

このため、冠水した水田ではいもち病や紋枯病の発生に注意し、計画的な薬剤防除を行ってください。特に、いもち病については、被害が拡大しやすいので注意が必要です。

(3) その他参考事項

ア 冠水時間が長引いた水稲(概ね24時間以上)では、出穂期が遅れる傾向があります。

イ 冠水により土壌が流入している場合に、流入土壌の堆積深が5cmの場合、次年度の基肥チッソ量を2kg/10a程度減肥する必要があります。

2 そ ば

地表面に滞水が見られる場合は、溝切りなどの排水対策を行ってください。なお、再播種が必要な場合は播種適期(概ね8月上旬)に留意し作業を進めましょう。

3 野菜・花き

(1) 共 通

- ア 停滞水は、水中ポンプや明きよなどで速やかな排水を行いましょう。
- イ 土砂の流入、流出や決壊等では場が損壊した場合は、排土や客土によって補修を行いましょ。また、崩壊した畦は、土上げ等を行って畦を修復しましょ。
- ウ マルチを行っている畦が冠水した場合、マルチ下の土壤水分が過多となりやすいので、マルチを一時的にはぐなどして畦の乾燥を促しましょ。
- エ 冠水時間が長く回復の見通しがいい場合は、他作物への転換やまき直しを行いましょ。

(2) 野 菜

- ア 排水後、ほ場作業が可能になったら直ちに畦間の中耕を行い、土壤の通気性を良くし根の働きを回復しましょ。
- イ 果菜類では、損傷を受けた果実はい早急には摘果し、着果負担を軽くさせて草勢回復を図りましょ。
- ウ 冠水や多湿、茎葉の損傷等により病害にかかりやすくなっていますので、茎葉に付着した砂泥は水をかけて洗い流し、直ちに品目ごとの防除基準に従い適切な薬剤散布を行いましょ。
- エ 大雨や冠水により土壤養分が流亡しているため、速効性の肥料を追肥します。草勢回復を図るためには、液肥のかん注や葉面散布剤の散布を行いましょ。
- オ 収穫した野菜は傷みがないか良く確認しながら調製作業を行い、被害品は出荷しないようにしましょ。
- カ トマトについては、草勢維持のためかん注や葉面散布を行い、損傷を受けた果実や茎葉はい早急には摘果や整理をしましょ。また、根が傷み萎凋が見られるところでは、寒冷紗等で遮光して萎凋を軽減しましょ。
冠水したほ場では、疫病や軟腐病、灰色かび病が発生しやすくなりますので、発生に注意し薬剤散布を行います。灰色かび病は、花卉や罹病した葉・果実の除去を行い防除しましょ。
- キ ネギについては、倒伏株は、できるだけ早く起こして茎が曲がるのを防ぐとともに、冠水したほ場においては薬剤散布を行い病害の発生を防止しましょ。

(3) 花 き

- ア キクやリンドウ等の露地栽培では、風雨により損傷を受けると病害が発生しやすいので、速やかに適切な薬剤散布を行ったり、草勢回復のために液肥の葉面散布を行いましょ。
- イ ほ場が冠水した場合は、速やかに排水を行うとともに、付着した泥を洗い流し、灰色かび病等の予防薬剤散布を行いましょ。また、液肥の葉面散布や酸素供給剤のかん注により、草勢回復を図りましょ。

4 果 樹

長時間に渡る浸水や滞水は根や葉の呼吸を阻害し、生育不良や枯死を招きますので速やかに対策を実施してください。

- (1) 滞水している園地では、明きょなどにより速やかな排水に努めましょう。
- (2) 土砂が流入した園では、根の呼吸を助けるため、なるべく早く樹冠下の土砂を取り除き、園地がある程度乾いてから軽くカルチをかけましょう。
- (3) 枝葉などに泥が付着した場合はできるだけ早く洗い落とし、病害の発生を防ぐため適切に薬剤散布を実施しましょう。なお、定期散布が近い場合は、この散布に置き換えて実施します。
- (4) 樹勢の低下が認められる園では、樹勢に応じた着果量として樹勢の回復を図るとともに、窒素成分を含む葉面散布肥料を散布しましょう。
- (5) 倒伏した樹はできるだけ早く起こし、土を盛り、支柱等で固定します。その後は、かん水等により乾燥を防止し、新根の発生を促します。また、根の損傷が大きい場合は、地下部とのバランスを保つため、適宜、着果制限や枝の切りつめ等を行います。大枝が裂けた場合は、ボルトやカスガイ等で止めるか、縄などで縛り、傷口を接着させ癒合を図りましょう。
- (6) 農道などに土砂が堆積した場合は、作業の妨げになるので速やかに除去してください。
- (7) 停滞水による影響は、滞水時間や各樹種の耐水性により異なります。樹種別の耐水性は下記のとおりですので参考にしてください。

(耐水性[弱<強]：モモ・オウトウ・イチジク<ナシ・リンゴ<カキ・ブドウ)

表1 各果樹における根群の耐水性の比較(小林・庵原・村井・林 1949)

| | 根部浸水後から 新梢伸長停止ま での日数 | 葉の萎凋。黄化 など外的変化の 現れる日数 | 全根重に対する 小根重の割合 | 排水から新梢伸長 再開までの日数 |
|------|----------------------------|-----------------------------|-------------------|---------------------|
| イチジク | 6～7 | 6 | 59 | 枯死～8日 |
| モモ | 9～13 | 4 | 67 | 枯死 |
| ナシ | 6～7 | 6 | 73 | 枯死～再伸せず |
| カキ | 7～12 | 20 | 88 | 7～10日 |
| ブドウ | 14～20 | 14 | 76 | 2～6日 |

5 畜産・飼料作物

- (1) 畜舎等が浸水や土砂が流入した場合は速やかに排水や土砂を取り除き、疾病発生予防のため洗浄と消毒を行った後、施設内の乾燥に努めましょう。
- (2) 滞水している草地や飼料畑は、明きょなどを点検し速やかに排水しましょう。
- (3) 豪雨により草地や飼料畑で土壌浸食が発生した場合は、早めに修復しましょう。

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL(024)521-7336

<http://www.pref.fukushima.jp/keieishien/kenkyuukaihatu/gi.jyutsufukyuu/seiikugi.jyutsujyohou.html>